

徳島県 幼・小・中連携推進事業 「学びのかけ橋」プロジェクト



幼稚園教育要領等及び学習指導要領が改訂され、学校教育において、幼稚園等、小学校及び中学校の全ての教職員の共通理解のもと、連続性のある教育活動を推進していくことが、これまで以上に求められております。

平成22年度に開始した本事業では、これまでも県内いくつかの地域が研究指定となり、「目指す子ども像」の共有、幼稚園教育と小学校教育・中学校教育の相互理解と充実、「接続カリキュラム」の作成、互惠性のある合同活動等について研究し、成果を残しました。

平成28年度・29年度の2年間は、東みよし町と阿南市椿地区が指定地域となり、幼小中、保小中の連携について研究に取り組みました。本パンフレットは、2年間の取組の成果を紹介するものです。ここでの成果が県内に広く活用され、充実した教育活動が展開されることを願っております。

「学びのかけ橋」の成果をすべての学校園に広げよう！

「学びのかけ橋」プロジェクトの指定を受けた東みよし町と阿南市椿地区の両地区とも保幼小中の連携、接続の取組をこの一年間で大きく進展させました。

この一年間の両地区の取組の成果から次のことを学ぶことができました。

日常的な「交流」「連携」の中から必要感のある「接続」へ

両地区において、保育所、幼稚園、小中学校の交流・連携が日常のものになり、そこから成果が生まれてきています。子どもの育ちと学びが異校種間で接続するためには、異校種間で教職員が繋がり、子どもの姿を共有することが前提です。保育所、幼稚園と小中学校が交流や互いの保育参観、授業参観を通して子どもの姿を共有する中で必要感のある接続カリキュラムが生まれてくるのです。

中学校区の保幼小中学校園が一体となった連携へ

椿地区では防災オリエンテーリングや運動会など保小中合同の取組が、東みよし町では中学校区の幼小中学校を一つの学園と見なした交流・連携の取組がされています。中学校区の学校園が一つの共同体として、行事などに合同で取り組むことで、教職員、子どもが互いに顔の見える交流・連携を作り出しています。行事計画の中に保幼小中で一緒にできる行事はないか見直してみるなどしてはどうでしょうか。連携の幅が飛躍的に広がります。

地域の力に支えられた学校づくりの進展

異校種間での繋がりを求める取組は必然的に地域との繋がりを強め、地域の教育力を引き出し、学校づくりに活かす取組に進展していきます。子どもたちの成長を見守っているのが地域です。東みよし地区でのコミュニティ・スクールの取組、椿地区でのふるさと発見の取組など、地域の力に見守られ支えられることが、子どもの育ちと学びの連続性を保障する、地域に根付いた学校づくりに繋がります。

平成30年度は幼児教育・学校教育にとって変革のスタートとなる大切な年です。各保育所・幼小中学校（園）では「学びのかけ橋」での教訓に学びながら、異校種間の「交流・連携・接続」の取組を、子どもに育成すべき資質・能力の3つの柱や「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善などの取組に位置づけ、実践を積み上げていかれることを願っています。

阿南市（椿町中学校区）の取組

研究テーマ

ふるさとに誇りを持ち、笑顔と元気があふれる椿っ子の育成
 ～ 小規模な保育所・学校の特性を生かした保・小・中の円滑なつながりを求めて ～

地域の概要

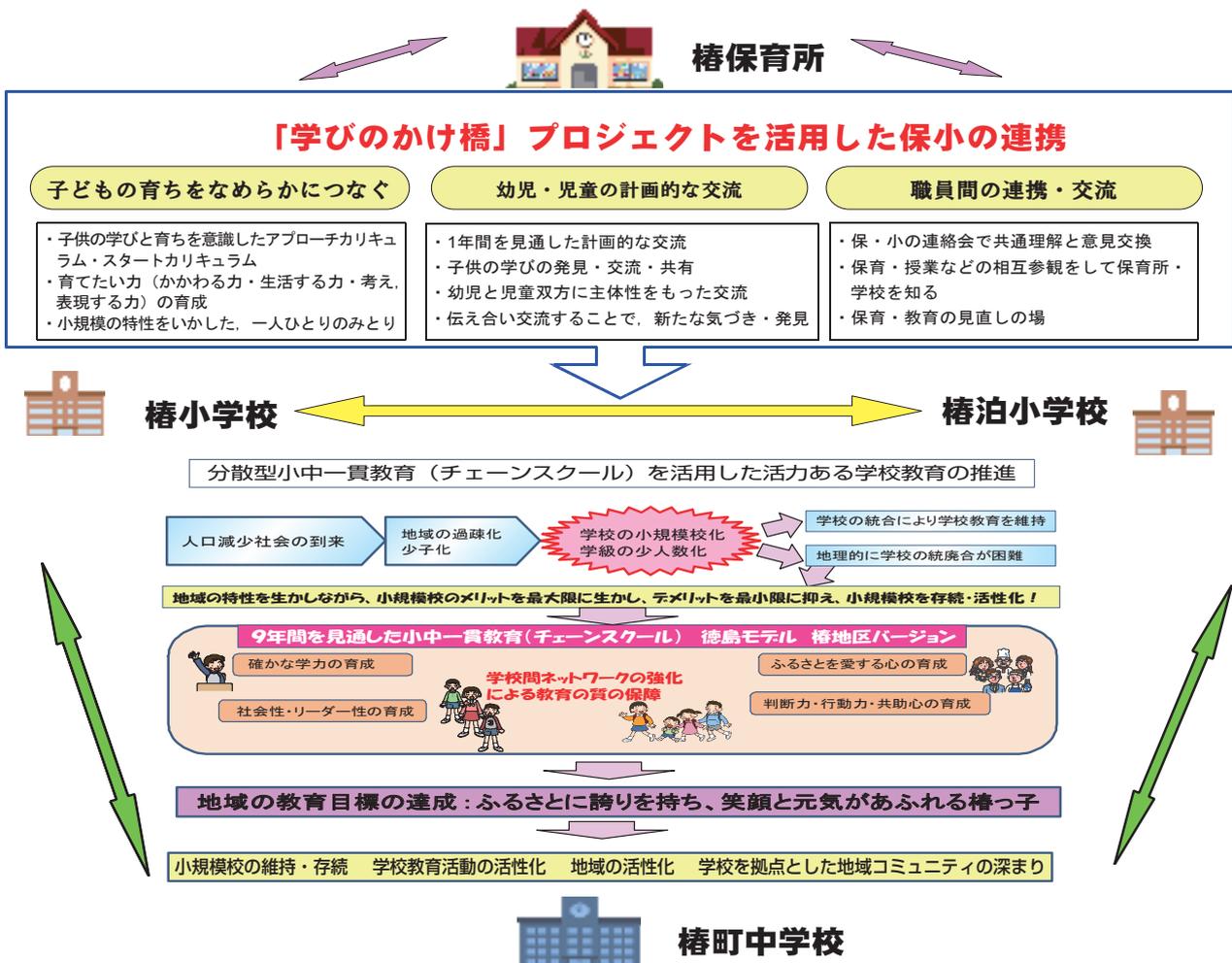
椿小学校は、阿南市南部の農村地帯にある全校児童18名の小規模校である。椿泊小学校は、さらにその先岬の先端に位置する小学校で、全校児童は11名である。2校の中間に位置する椿町中学校は、全校生徒15名である。椿保育所は椿小学校のすぐ近くにあり、幼児は15名、椿泊保育所が数年前に閉じたので、椿泊の子供たちも在籍している。

本地区は、平成25年度から椿町中学校区の3校で「チェーンスクール」を活用した小中一貫教育に取り組んでいる。この取組により、3校合同や小小連携のより大きな集団での活動や学校行事を連携して行い、多様な学びやふれあい、校種をこえた人間関係の広がり、コミュニケーション力の育成を図っている。この取組をさらに保育所に広げ、平成28年度より、15年間の学びを見通した保・小・中の連携をめざす「学びのかけ橋」プロジェクトに取り組むことにした。

方 策

- 保育所から小学校、小学校から中学校への円滑な接続のため、育てたい力を明らかにし、共通理解を図り連携する。
- 保小、小中、保小中の計画的な交流を生かして連携する。
- 地域と連携する。

15年間の育ちと学びを見通す



平成29年度年間交流計画(前期)

保育所・小学校・中学校の計画的な交流を生かした連携

月	椿保育所	椿小学校	椿泊小学校	椿町中学校
4	第1回保小連絡会			
4		第1回小中一貫全体会		
5	生活科「あさがお種まき(保育所)」			
5		合同体力テスト		
5		田植え		
5	生活科「学校の周りを歩こう(加茂神社)」			
6	生活科「学校の周りを歩こう(夢トンネル)」			
6	小中合同防災オリエンテーリング			
7		YMCA宿泊学習		
7	生活科「椿川生き物観察(椿川)」			
7		YMCA研修生との国際交流		
7	生活科「まちたんけん(椿泊漁港)」			
8	第2回保小連絡会			
9		和太鼓講演・体験(ワークショップ)		
9	夏休み体験経験発表会(椿小学校)			
9		稲刈り		
9	椿・椿泊地区合同運動会			
9	虫とり交流(椿小学校)			
9		第2回小中一貫全体会		

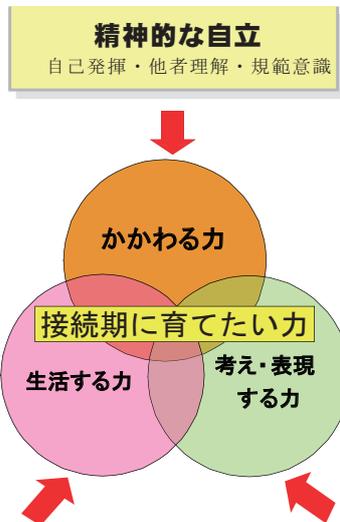
保小の交流
小小の交流
小中の交流
保小中の交流
保中の交流
教員同士の交流

一部抜粋

保育所と小学校の連携・接続

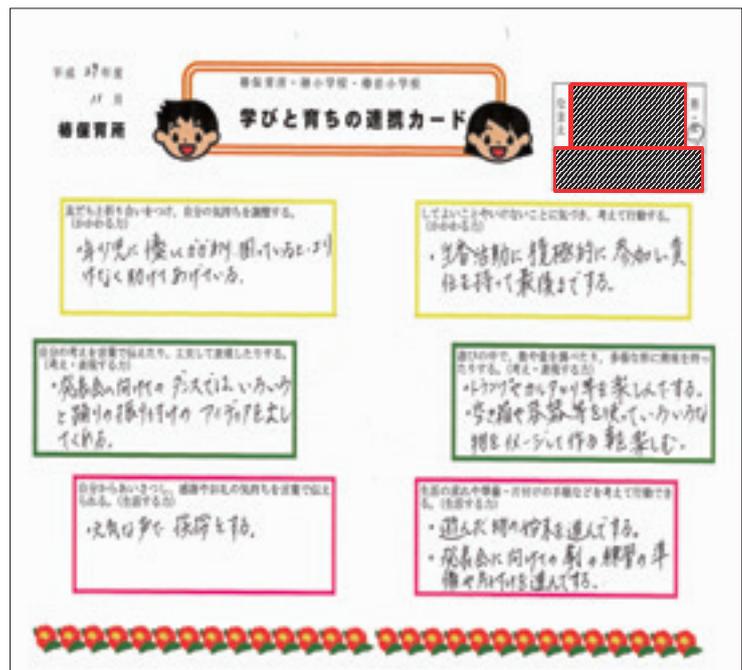
幼児期から児童期にかけて育てたい力

交流を深め、まず、お互いを知ることから始めた。そして、無理なくできることから、活動・交流をした。その中で、子どもの現状と課題をさぐり、めざしたい子どもの姿を明らかにし、特に接続の視点から下記の3つの視点を重視してみとることにした。



小規模な保育所・学校の特性を生かす

ひとりひとりのみとり個人カルテ



椿小学校 スタートカリキュラム

1日目	1日目	2日目	3日目
行事年	入学式・年級写真	給食開始	地域子ども会
意 図		・挨拶をしよう ・ロッカーの使い方 ・着替えの仕方	・挨拶をしよう ・自分で準備しよう
朝の活動		読書活動	地域子ども会
朝の会		元気に大きな声で挨拶をしよう	元気に大きな声で挨拶をしよう
1	・靴箱や盗難 ・ロッカーの位置を覚えよう ・道草・自己紹介の練習をしよう ・トイレに行こう	学童 ・挨拶と通学 ・トイレの場所と使い方 ・並び方・廊下の歩き方 ・靴箱・傘立ての使い方	国語 ・教科書や用品の記名確認 ・良い姿勢 ・給食の持ち方 ・練のおけいこ
休 憩		トイレを正しく使おう	トイレを正しく使おう
2	入学式	国語 ・ワークルームへの行き方 ・ワークルームの利用の仕方 ・本の借り方	行事/学童 ・身体測定 ・教室での過ごし方 ・プリントのもらい方
休 憩		トイレを正しく使おう	トイレを正しく使おう
3	・年級写真を送ろう ・下校の準備をしよう ・帰りの挨拶をしよう	学童 ・身体測定にむけて ・わたしたちの健康	学童 ・学用品の出し入れ ・先生の名前を覚えよう ・お箸の持ち方 ・給食の食べ方
休 憩		トイレを正しく使おう	トイレを正しく使おう
4		学童 ・給食の準備・片付け	国語 ・自分の好きな食べ物を作ろう
給 食		正しい姿勢で給食を食べよう	みんなでお花見結束
休 憩		・下校の準備をしよう ・帰りの挨拶をしよう 下校指導	・下校の準備をしよう ・帰りの挨拶をしよう 下校指導
放 学			
チャレンジタイム			

- (1) 活動名 「お掃除をしよう ～ピカピカレジャ～」
- (2) 目標 みんなで協力して 楽しく 掃除に 取り組む。
- (3) 準備物 掃除道具 (ほうき、もりとり、雑巾など)
- (4) 展開

活動例 「おそうじをしよう」

主な学習活動	児童の意識の流れ ◎教師の支援 予想される発言	★評価基準 (評価方法)
1 掃除について知る。 ・椿小学校ではクラスみんなで分担して掃除することを 知る。	◎保育所の経験聞きながら、小学校1・2年生の掃除場所を伝える。 	
2 掃除道具の名前や掃除の仕方を知る。 ・ほうき、もりとり、雑巾の使い方を知る。	◎ほうきの使い方、雑巾の絞り方、ふき方などを2年生が前でお手本を見せる。 ◎掃除とくるところとしてないところを見くらべ、気付いたことを発表する。きれいに掃除ができていた2年生を褒め、ピカピカレジャ～の一場だと1年生に伝える。 ◎掃除をした感想を話し合い、みんなで協力して掃除し、きれいになったとき、気持ちがよく、みんなも気持ちよく生活ができるということを確認する。 	
3 掃除道具を使って掃除をする。 ・2年生と一緒に掃除を行う。	◎ほうきの使い方、雑巾の絞り方、ふき方など2年生と1年生がペアになり、行う。 	
4 掃除道具の後片付けをする。	◎上手にできている子を褒め、意欲を高める。 ◎クラスみんなが毎日の掃除時間にピカピカレジャ～になれるよう意識させる。 ◎2年生がまずお手本となり、見本を見せる。 ◎どういった点に注意して片付けをしているか、発表させる。 ◎1年生にもこれから一緒に頑張ろうという気持ちを伝える。 ◎片付けが済むと手洗いうがいをして終わるよう伝える。	☆自分たちの学級や学校はみんなの力を合わせてきれいにすることを知り、頑張ろうと思う気持ちを持つ。

1時間1時間の活動例の積み重ねがスタートカリキュラムになります。

保育所と小学校の連携・接続

計画的な交流・連携（保小）



虫とり

あのバッタ
つかまったら
虫かごに入れて
あげるね。

こしをおとして、
手をあげて
げんきよく！

新しい発見・体験で会話が生まれる



阿波踊り交流

運動会で
いっしょに
おどろうね。

伝え合い交流することで、新たな気づき・発見



椿泊漁協の見学

アサギマダラが
飛んでくると
いいね。

椿泊では、
こんなにたくさん
新鮮なお魚が
とれるんだよ！

子どもたちにふるさとへの誇りをもたせたい



フジバカマ植え

「ふるさと」に
つながる交流

5・6年生とも交流しました

職員交流

スムーズな連携・接続に向けての情報交換
子ども観の共有



保小連絡会



保育参観

小学校の教員が保育所参観

お互いの園・学校を知る



保育士が小学校参観

成果

- ・虫とりでは、保育所の幼児のために1・2年生がバッタを虫かごに入れてあげたりするなど、やさしい心づかいが育ってきた。
- ・阿波踊りを小学生は、張り切って教えにいったが、自分たちがやるのと教えるのとは違うことに気づき、教え方を工夫していた。
- ・交流を通して、小学生は、幼児に教えたり一緒に活動したりすることで、自らの成長を実感し、自分が今分かっていることは何かを自覚し、さらなる学びにつながった。また、幼児も小学生の活動から、よいモデルとしての学びがあったと感じられた。
- ・育てたい力を設定することで、一人ひとりの子どものよさがより見えてきた。
- ・小学校教員が保育所での学びや育ちを知ることにより、小学校での学習に結びつけることができた。また、保育や教育の見直しができる。

椿小学校と椿泊小学校の連携

計画的な交流・連携（小・小）



田植え

植えるのは
けっこう
むずかしいなあ。

うまくこげる
ように
なりました。



YMCA宿泊学習

成果

- ・より大きな集団で学習することにより、多様な考えに触れることができ、学習のはばが広がった。
- ・将来、同じ中学校で学習することになるので、交流することでなかまづくりにつながっている。
- ・ICT機器を使用することにより、即時性が有り、交通手段を使わなくてよく、効率性・利便性がはかれた。
- ・学習や行事を通して、お互いの地域のよさや自分たちの住んでいる地域のよさの再確認ができた。
- ・合同で教材研究をすることで、教員の意識改革、資質向上につながっている。

小学校と中学校の連携・接続



音楽の小中合同授業

さすが中学生！
上手です。

先輩のように
話したいな。



英語・外国語活動の小中合同授業

職員交流



全体会議

3校の教職員
が集まり共通理
解を深め各部会
の取組について
協議・報告・確
認する。



中学校教員による出前授業

成果

- ・小中の交流を進めることで、児童が中学校生活への見通しをもつことができ、不安感をとりぞき、中1ギャップの解消につながっている。
- ・小中の教員が同一の目標をもち、一貫性をもって授業改善に取り組むことにより、児童生徒の学力の定着を図る取組ができた。
- ・児童の学習・生活状況が中学校に把握されやすくなり、中学校入学後の指導や支援に役立っている。

保育所・小学校・中学校の連携

「ふるさと」のよさの発見！



ふれあい防災
オリエンテーリング



椿・椿泊町
合同運動会



椿っ子バザー



椿地区人権教育研究大会

地域との連携

取組を地域へ発信



年6回椿地区に新聞折込で配布



各所・学校便りで取組を報告

地域との連携

地域の教育力の活用



地域のことに詳しい方によるふるさと学習



アサギマダラに詳しい地域の方の協力を得て
アサギマダラマーキング遠足



星や天体に詳しい地域の方を講師に
月や惑星の天体観察



地域ボランティア団体と、ウミガメが
上陸する蒲生田海岸の清掃活動

成果

- ・地域の人材の活用・協力によって保・小・中の連携が成り立っていると看ても過言ではない。ふるさと学習やウミガメ学習・漁港見学など、自分の生まれた土地のことを知り、調べることによって、椿のよいところを発見したり、ふるさとを愛する気持ちが育ったりしている。
- ・地域の方を学校に招いて教えてもらうだけでなく、学校から地域へかけて学校の取組を知らせる活動をした。渡りをする蝶の好む花の苗（フジバカマ）を、近所にも配布して学校の取組を知ってもらう活動をした。
- ・チェーンスクール通信を地域の新聞折込で配布したり、様々な行事や活動を広報することにより、地域の方々と子供たちの「育ち」を共有することで、学校の取組を応援・協力してくれる方が増え、地域との連携・協働が進んだ。
- ・地域は、幼児・児童・生徒にとって生活の場であり、学習の場である。本地区は、自然環境に恵まれ素材が豊富である。アサギマダラの観察や月・星の観察・田植え・稲刈りなど地域の人材の協力をあおいで充実した活動ができた。また、地域の文化的・社会的なものを、繰り返し調査したり、それらの素材を教材化したりして生かすことができた。

東みよし町の取組

研究テーマ

相互の理解と交流を中核とし、地域とともにある幼小中の連携のあり方
～ すべての子供の「元気に登校、楽しい学校生活、笑顔で下校」のために ～

地域の概要

本町は、吉野川を挟み北岸の旧三好町と南岸の旧三加茂町の2町が合併し、三三大橋一本でつながれた町である。三好中学校校区と三加茂中学校校区それぞれに、2校の小学校とそれに併設された、2幼稚園が有り、三加茂中学校区の幼稚園・小学校・中学校を三加茂学園、三好中学校区の幼・小・中を三好学園と称してそれぞれの学園の中で連携を図っている。

方 策

- 中学校区別に、幼稚園・小学校・中学校をひとつの学園として構想し、学園内で連携を図る。
- 幼小、小中、幼小中の計画的な連携
- 地域（学校支援隊）との連携

年間交流計画例（加茂小学校平成29年度年間計画2学期分）

今ある行事や活動を
活かした計画
継続的な交流



保護者や地域の方々を
巻き込んだ活動
地域との連携
学校支援隊の方々による
コミュニティ・スクールの活動



月	加茂幼稚園	加茂小学校	三加茂中学校
10	★10/11いもほり	[1年]	[6年] 10/12乗り入れ授業(国語・理科) [6年] 10/18三加茂学園人權フェスタ [2年] 10/19学校ダンス発表会
11	11/10おいもでおやつをつくったよ(さつまいもホットケーキ) 11/26緊急時引き渡し訓練 11/28一緒に遊ぼう 11/30避難訓練	[1年] [1-6年] [1-6年]	家庭科(幼児教育)
12	12/7鉛筆指導(保護者) 12/15いっしょにあそぼう 12/19鉛筆指導	[教師] [1年] [教師]	[6年] 12/5乗り入れ授業(理科) [2年・4年] 12/5乗り入れ授業(食育)
	1/20わくわくフェスタ 1/18防犯教室 1/鉛筆指導	[1年] [1-6年] [教師]	[4-6年] 1/金管合同練習

テーマ ねらい	第1週 テーマ たのしみがいっこう だいすき 足代小学校 ○学校生活で必要なまりや約束を少しずつ覚えながらたのしく過ごす。				
1週目	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
行事等	入学式	給食開始・交通安全教室	身体測定		
登校	・5年生と一緒に自分の の靴箱や座席・ロッ カーなどを見つけよう	・先生に挨拶をしよう ・教室を覚えよう ・自分の机を覚えよう	(自分から挨拶をしよう) (靴、傘をきもちんを入れよう) (持ち物の片づけ)	スタートカリキュラム	
朝の活動 朝の会		★朝の活動を教師と1人1人に全員でする 1.ランドセルの中のものを出す。2.提出物以外のものを所定の場所に置く。 3.提出物を出す。4.ランドセルの片づけ。(準備ができたなら読書・お絵かき) 5.朝の会(あいさつ・健康観察など)			
		トイレに慣れよう			
1	・入学式についての 話を聞こう ・返事の練習をしよう ・トイレに行こう	生活 学校のことが知りたいな (教室での生活) ・机、ロッカー、靴箱、傘立 て、持ち物の片づけ ・服の履き方	学活 身体測定 どんな検査があるか 並び方	国語 みんなのせかい 絵を寛ど読もう ・教科書の折り方、開き 方、持ち方・読み方・聞き 方	図工 好きなものなあに 好きなものをとんとんか いていこう
休憩		トイレに慣れよう			
2	行事 入学式 入学の喜びを味わお う	生活 学校のことが知りたいな (教室とその近く) ・トイレ、手洗いの使い方 ・廊下の通り方 ・チャイムのこと	学活 (身体測定)	生活・体育 学校のことが知りたいな (運動場・校庭) 並び方・歩き方 合図の守り方	国語 みんなのせかい 聞き方・話し方 子供たちのしているこ と、話していること

幼 小 の 交 流



芋苗植え・芋掘り

たくさんとれたね。
おおきいなあ！

おにいちゃん、
じょうずだなあ。



児童は意欲的に、ペアになった園児に一つ一つ順を追って説明したり、手助けしたりしていた。



七夕かざり作り

ほら、こうやって
つくるんだよ。

かざるのが
たのしみだなあ。





すきなものクイズ大会

おにいちゃんの
すきなものは
なんだろう。

いっしょに
ほったおもちで
つくったよ。



おもちケーキのプレゼント



秋祭りをしよう

いっぱい
つくったからね。
楽しんでね。

しょうがくせいにな
ったら、こんな
ほんがよめるのか。
たのしみだなあ。



図書室デビュー

成果

- ・幼稚園児と1年生が活動を通して積極的にかかわることができ、回数を重ねるたびに交流が深まり、幼稚園児からは「小学校は楽しそう。」というつぶやきが聞かれた。1年生からは「頑張ってたったら幼稚園さんが喜んでくれたので楽しかった。」という感想があった。
- ・1学期は個々で活動に取り組む姿が多かったが、2学期はお互いが関わりながら活動する様子がたくさん見られ、集団としてのまとまりが見られた。活動後、「またやってみたい」という声が、双方から多数聞こえてきたことから、交流が成功したことを実感できた。
- ・かつての姿を知っている幼稚園教諭が、1年生の成長を認めたり励ましたりする言葉かけをすることにより、子供たちは自分たちの良さや成長を自覚することができ、意欲的な学校生活につながっていった。
- ・活動後には、幼稚園と小学校の教職員が子供の特性や成長の様子について情報交換することができた。

小学校と中学校の連携・接続

乗り入れ授業

ソフトボール投げ（体育）

中学校の先生方の専門的な知識や技能を生かして、体験的に楽しみながら学びや思考力を深める。また、中学校の先生とふれ合うことで、中学校進学にあたっての不安を緩和する。

投げる動作の基本について指導を受け、自信をもって投げるできるようになった。



人権ポスター（図工）



下書き後の着色について、ポイントを説明した後、各自が一生懸命に取り組んだ。

竹取物語（国語古文）



中学校で学習する古文の授業を味わった。

水溶液の性質を調べよう（理科）



身の回りにある食品で実験できることに驚いていた。
新しい発見に興味を持って実験できた。

地層見学（理科）



教科書で学習した地層や岩石の様子を、実際に目で見たり手で触ったりしながら、体験的に学習することができた。

小 中 の 交 流

小学生が中学校の行事に参加したり、授業や課外活動で中学校教員や生徒が児童に指導したりする。

「中学生はすごい」「こんなふうに歌いたい」という感想を見て、中学生も喜んでた。

中学校の合唱コンクールに参加した後の感想掲示



金管バンド指導（部活動）



中学校の先生や先輩に指導を受け、練習方法がわかってきた。

中学生が学校生活や勉強、テスト、部活動などについてスライドを使って、わかりやすく説明した。小学生は興味が膨らんできた。



中学校の説明（職場体験）

成 果

- ・中学校の先生による授業を通して、小学生は先生との距離が縮まり、親しみが持てるようになった。
- ・小学校で学習した知識を生かしてできること、また、中学校へとつながる発展的な内容を学習することで中学校への期待感を持つことができた。
- ・小学生は身近な先輩から話を聞くことで、実際の中学校生活をイメージすることができ、これからの見通しを持つことができた。
- ・交流を深めることで、中学生を手本にしたいという思いをもったり、尊敬の念を抱いたりしている小学生も多かった。
- ・中学生は小学生に見てもらったり、教えたりすることで「わかってもらえた」「小学生の役に立った」など自信が芽生え、技術の向上につながり、自己有用感が高まった。

幼稚園・小学校・中学校の連携・成果

教職員研修会

幼小中全教職員が一同に会して研修会を年間3回程度開催している。まずは幼小中の教職員が顔見知りになること、つながることを目的に始めた。本年度も3回実施することができた。

第1回～第3回幼小中合同研修会



「学校全体で取り組むポジティブな行動支援」について自校でできること、できそうなことを話し合った。



小学校部会は「よくわかる学校ガイド」について、中学校は「学習の手引き」について検討した。

講師を招いての講演の後、テーマに分かれてワークショップを行った。



成果

- ・研修会を開催したことにより、「幼小中の先生方と意見を交換・共有することは、とても刺激があり、やる気がわく」「各校の取組や課題・悩みなどを知ることができ、さらに頑張ろうという気持ちになった」という感想があり、町全体の教職員の意識向上につながった。
- ・回を重ねるごとに、教職員同士の距離が縮まり、意見が言いやすくなったようだ。また、子どもの情報交換もしやすくなった。教職員の意識が変わることで、校種を越えた関わりができています。

地域との連携・成果

コミュニティ・スクール

学校や子供たちを取り巻く様々な問題を解決し、よりよい学校運営を行うために、保護者、地域、学校がともに力を合わせて「地域とともにある学校づくり」を進めている。「東みよしの子供を地域で育む」その核となるのがコミュニティ・スクールである。各学校に支援をいただけるボランティアの方を学校支援隊として登録してもらい、活動の充実を図っている。現在、支援隊が500名を超えた。



もちつき



ふれあい広場



学校支援員と教職員の研修会



放課後子ども教室 風船遊び

成果

- ・子どもたちは地域の方々から声をかけられることで、支えられているという実感を得ることができている。
- ・地域が学校を支えることで、子どもたちは様々な体験ができ、成長していける。
- ・学校・家庭・地域がそれぞれの役割を明確にして、協力していける場をつくることができる。

